

# 5000人を 教えた男



佐藤一郎の感性と理論のフィッティング

特徴に合わせたやるべきイン  
グのフィッティングを行うという  
順序で進めていきます。うまくい  
かないのは「スイングが悪い」の  
です。クラブの機能を利用するよう  
にスイングすれば、やるべき動作、  
つまりスイングが身につきやす  
くなります。そして振り易いクラブ  
を見つめるモノサシが明確にな  
ります。振り易さのモノサシが出来  
上がってから、クラブフィッテ  
ィングへ移ります。

## より遠くへより正確に ゴルフフィッティング ドライバー編

ドライバーのフィッティングで  
は飛んで曲がらないドライバーを  
手に入れたいという希望が大半で  
す。「飛ばす」ために何を考  
えているのか、お客様の考えをよ  
く聞き、それを実際やってみら  
うことから始めます。

自分のドライバーを使い、イン  
パクトアナライザーを設置した打  
席でボールを打ってもらいます。  
一球目より二球目を飛ばすよう  
に、三球目はさらに飛ばすよう  
に、とやってもらおうと、いろいろ

ことがわかります。

ヘッドスピードは上がるのにボ  
ール初速が上がらなくなったり、  
飛ばそうとしてスピン量が極端に  
増えていたり、と不具合が出て  
きます。これが自分の考えた飛距  
離の出し方の結末であるというこ  
とを経験してもらうため、知識の  
是正が必要になります。

私は、飛ばすためには「力の連鎖  
を作ること」という提案をします。  
この動作はシャフトのしなり・し  
なり戻りという機能と連携させま  
す。

もう一つは曲がらないための方  
法論です。正確性を求めるために  
飛距離を犠牲にし、距離を出すこ  
きは正確性に多少目をつぶるとい  
った相反する動きで対応している  
ゴルフアークが非常に多いので  
す。私の提案は「二つのヘッドスピ  
ードのアップのさせ方を身に付け  
る」ということで正確性への対応  
を行います。

二つとはヒールスピードとトゥ  
スピードのことです。これを別々  
にアップさせる方法を学ぶことで  
スピードアップの中に方向性とい  
う要素が生まれてきます。です  
から両立します。この動作にはヘッ  
ドの重心角のフィッティングで対

## ゴルフフィッティングの流れ

前号までに「ゴルフフィッティ  
ング」の前段となる考え方を紹介  
しましたが、本号から具体論に入  
ります。まず、ゴルフフィッティ  
ングではお客様の希望を伺いま  
す。その希望を実現するために今ど

考え、どう対処しようとしている  
かをヒアリングします。そして自  
分がやるうとしていることがどん  
な結果を招いているかを経験して  
もらいます。

うまく機能していないのであれ  
ば考えを是正します。そしてやる  
べき動作（スイング）を知り、理解

してもらいます。このやるべき動  
作はクラブの機能と紐付けされる  
ことが重要です。体の動かし方に  
は「人それぞれ」の個性が必ずある  
ので、フィジカルの特徴を判定テ  
ストで明確にします。

このようにゴルフフィッティ  
ングでは考えを整理し、自分の身体

応します。このような話をして、これからやることを理解できたら、ドリルを使って感じ取ってもらいます。

まず力の連鎖について、前回までに説明した「フィジカルフィッティング」を行い、自分のキネティックチェーンを確認します。そしてそれを使ってバランスボール投げをやってもらいます。ターゲットラインに対して平行に構えたスタンスラインの延長上に私は立ち、ここに投げてもらいます。

一回目より二回目、二回目より三回目と、どんどん加速して投げてもらい下半身から順に投げる手に力が伝わってくることを体感していただきます。自分がどのように入力を出しているのかを尋ね、明確にします。そしてこの力の連鎖をゴルフスイングに取り入れ、これを目標動作とします。

## クラブフィッティング

そしてフィッターにバトンタッチです。四種類のシャフトタイプが異なる試打クラブを用意します。これはバット、センター、チップという三点の剛性測定で剛性の減少率を変化させたシャフトで

対応します。ヘッドはすべて同じにして、スペック的にほぼ同じクラブにしてあります。一本につき一球のみ打って頂き、感想を聞きます。優先順位を付けてもらいます。これでシャフトのしなり方としなり戻る早さのピッチリくるシャフトチョイスを終えます。チョイスされたシャフトでクラブを組み上げ、第二段階のテーマに移ります。正確性です。

これはヒールスピードとトゥスピードの上げ方をマスターするということでした。これを体感するために、スイングフィッティングで紹介したシャフトの真ん中あたりを曲げたクラブを使って「重さを消す」という動きを練習してもらいます。

フェース面の向きを変えないでシャフトを上げていくとクラブが重いです。今度はフェースを開いたりすれば、それもまた重いのですが、クラブの重さが軽くなるどころがあります。これを感じて頂きます。フォロースルーでも同じです。このクラブを使って軽くなるどころから軽くなるどころへ、重さを消します。重さを消したところから重さを消すところへ振っていきわけて、この動作が目標動

作となるのです。

そしてフィッターにバトンタッチです。

ヘッドの裏側3点で重量フィッティングできるヘッドを使い、最初丸裸にしたクラブで、目標動作を行います。次にトゥのみに10g、さらにヒールのみに10gと重量配分を変えて重さを消す動作をやって頂きます。どのような感じがするか感想を聞きます。重さの感じがわかり、その重さを消す感じがわかる。

つまりヒールからインパクトゾーンに入ってきて、トゥスピードが加速していく感じを体感できるようになり、その動きがスムーズである重量配分にたどり着きます。重さを消すというクラブの動き方は軌道とフェースの向きに直接関係するのです。

このような二段階のクラブフィッティングで、振り易いシャフトチョイスと重心角度フィッティングを施した振り易いドライバーにたどり着けます。もちろんその時には同時にやるべき動作と練習の方向性も明確になります。

ゴルフフィッティング、次回は正確に打てるアイアン編です。

## フィッティングの歴史 ∞ フィッティングとクラブ販売ビジネス ∞ 続編

私は前回、フィッティングが時間的にも価格的にもコストが掛かると指摘しました。今まで販売店のフィッティング、メーカーのやっているフィッティングなど多くのフィッティングプログラムを経験しましたが、多くのフィッティングは購入するクラブを選択するための試打という域を脱していないと感じました。基本的にはスイングの内容には立ち入ってこない「動作肯定型」のやり方なので、今使っているクラブとさほど変わらないスペックのクラブにたどり着くのは明白です。

そのために多くの試打クラブを用意し、インパクトアナライザーとそのスペースを整えるには多大な投資が必要です。さらにフィッティングと称するイベントをするための時間も人材も必要です。感激するようなクラブに巡り合えば購入にたどり着けるかもしれませんが、購入成約率はどのくらいなのでしょう。こ

のようなフィッティングプログラムは全部コストとなって粗利を減らすこととなります。このプログラムが値引きより圧倒的にマーケティングの優位性があるのでしょうか？疑問です。

しかし本来フィッティングというプログラムは、クラブを購入するゴルファーにとって大変有益なプログラムです。優れたフィッティングプログラムはクラブチョイスだけでなくスイングの修正点も発見でき、練習の方向性も知ることができます。まさにゴルフレッスンそのものです。体の動きのみを教えるダンス教室みたいなレッスンよりはるかに有益です。そのようなフィッティングプログラムは立派に商品価値があるソフトとして成立します。そしてそれをクラブ購入希望のゴルファーに提供することが成功のヒントかもしれません。プログラムサービスの持つ力の有効活用です。

### 佐藤一郎 (さとう・いちろう)

1954年6月生まれ、東京都出身。筑波大学大学院スポーツ経営修士卒。1986年(社)日本プロゴルフ協会入会。故チャック・キャンベルプロに師事、ゴルフプロフェッショナルとしての資質を学ぶ。クラブに関してはヘア、クラブデザイン、フィッティング&フィッター養成など行なう。スイングに関しては百貨店の主催するゴルフスクール用教材の開発、ウェットソフトアナライザー開発、パソコン通信でのレッスンなど幅広く活動し、プロ活動30年を機に自らのレッスン手法「3Sゴルフ理論」を確立した。その他、筑波大学大学院にてスポーツマーケティングを学び卒業後ゴルフコースの再生ビジネスに従事した。近年はキネシオロジーをゴルフ指導に生かす研究をしている。